(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2016-211274
(P2016-211274A)
(43)公開日　平成28年12月15日(2016.12.15)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
E04B 1/66 (2006.01)		E04B	1/66	A	2E001

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 13 頁）

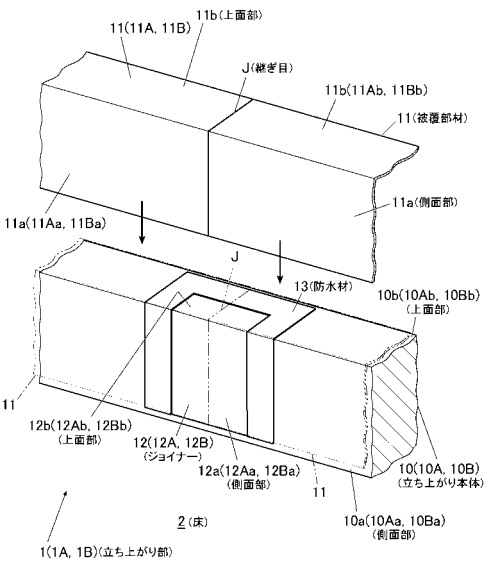
(21)出願番号　特願2015-97159(P2015-97159)
(22)出願日　平成27年5月12日(2015.5.12)

(71)出願人　307042385
ミサワホーム株式会社
東京都新宿区西新宿二丁目４番１号
(71)出願人　504093467
トヨタホーム株式会社
愛知県名古屋市東区泉一丁目２３番２２号
(74)代理人　100090033
弁理士　荒船　博司
(72)発明者　寺内　知網
東京都新宿区西新宿２丁目４番１号　ミサワホーム株式会社内
(72)発明者　渡辺　聡
東京都新宿区西新宿２丁目４番１号　ミサワホーム株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】立ち上がり部の防水構造

(57)【要約】
【課題】本発明の課題は、隣接する被覆部材間の継ぎ目が露出した状態であっても、立ち上がり部の防水性を向上させることである。
【解決手段】屋外にある床２に設けられ、目地部３を介して直上に外壁材４またはサッシ５が配置される立ち上がり部１は、床２側を向く側面部１０ａと、外壁材４またはサッシ５の下端面４ａ，５ａ側を向いて当該下端面４ａ，５ａとの間に目地部３を形成する上面部１０ｂと、を有する立ち上がり本体１０と、立ち上がり本体１０の幅方向に沿って並設されて当該立ち上がり本体１０の側面部１０ａと上面部１０ｂとを被覆する、断面略Ｌ字状に形成された複数の被覆部材１１と、隣接する被覆部材１１，１１間の継ぎ目Ｊの裏側に配置される、断面略Ｌ字状に形成されたジョイナー１２と、を備える。そして、ジョイナー１２の縁部には、当該縁部に沿って防水材１３が設けられている。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
屋外にある床に設けられ、目地部を介して直上に外壁材またはサッシが配置される立ち上がり部の防水構造において、
前記立ち上がり部は、
前記床側を向く側面部と、前記外壁材またはサッシの下端面側を向いて当該下端面との間に前記目地部を形成する上面部と、を有する立ち上がり本体と、
前記立ち上がり本体の幅方向に沿って並設されて当該立ち上がり本体の前記側面部と前記上面部とを被覆する、断面略Ｌ字状に形成された複数の被覆部材と、
隣接する前記被覆部材間の継ぎ目の裏側に配置される、断面略Ｌ字状に形成されたジョイナーと、を備えており、
前記ジョイナーの縁部には、当該縁部に沿って防水材が設けられていることを特徴とする立ち上がり部の防水構造。
【請求項２】
請求項１に記載の立ち上がり部の防水構造において、
前記複数の被覆部材のうち前記床側を向く側面部には、第一防水シートと、この第一防水シートに重なり合う第二防水シートが貼設されており、
前記第二防水シートは、前記隣接する被覆部材の継ぎ目に対応する位置に配置されていることを特徴とする立ち上がり部の防水構造。
【請求項３】
請求項２に記載の立ち上がり部の防水構造において、
前記床には、当該床の最上層を構成する仕上げ材が設けられており、
前記第一防水シートおよび前記第二防水シートの下端部は前記仕上げ材によって覆われていることを特徴とする立ち上がり部の防水構造。
【請求項４】
請求項２または３に記載の立ち上がり部の防水構造において、
前記目地部には、当該目地部を塞ぐ目地材が、前記第一防水シートおよび前記第二防水シートの上端部を覆うようにして充填されていることを特徴とする立ち上がり部の防水構造。
【請求項５】
請求項１～４のいずれか一項に記載の立ち上がり部の防水構造において、
前記防水材は、ブチルゴム系の防水材であることを特徴とする立ち上がり部の防水構造。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、屋外にある床に設けられた立ち上がり部の防水構造に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、例えば共同住宅の外廊下やバルコニー等における立ち上がり部には、立ち上がり部の防水性を確保するための防水構造が適用されている（例えば特許文献１参照）。
特許文献１においては、チャネル材および合板からなる立ち上がり部の直上に外壁材またはサッシが目地部を介して設けられており、当該立ち上がり部が金属製の被覆部材によって被覆されている。そして、床材を被覆する防水シートを、金属製の被覆部材をさらに被覆しながら目地部の奥まで貼り付けることによって立ち上がり部の防水処理を行っている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００９－０７９４５２号公報

【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところで、立ち上がり部の直上に位置する外壁材またはサッシの施工手順は建物構造に応じて異なり、立ち上がり部の防水処理を行った後に外壁材またはサッシの施工が行われる場合と、立ち上がり部の防水処理を行う前に外壁材またはサッシの施工が行われる場合がある。
ところが、後者の場合に、立ち上がり部の上面と外壁材またはサッシの下端面との間隔すなわち目地部の上下の間隔が狭いと、防水シートを目地部の奥まで貼り付けることが困難であった。つまり、特許文献１に記載の防水構造に当てはめれば、金属製の被覆部材の上面を防水シートでカバーできない状態となる。そして、被覆部材の上面を防水シートでカバーできないと、例えば複数の被覆部材を並設して用いた場合には、隣接する被覆部材間の継ぎ目が露出した状態となってしまう。
そこで、本発明の課題は、このように隣接する被覆部材間の継ぎ目が露出した状態であっても、立ち上がり部の防水性を向上させることである。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
請求項１に記載の発明は、例えば図１～図４に示すように、屋外にある床２に設けられ、目地部３を介して直上に外壁材４（４Ａ）またはサッシ５が配置される立ち上がり部１（１Ａ，１Ｂ）の防水構造において、
前記立ち上がり部１は、
前記床２側を向く側面部１０ａ（１０Ａａ，１０Ｂａ）と、前記外壁材４またはサッシ５の下端面４ａ，５ａ側を向いて当該下端面４ａ，５ａとの間に前記目地部３を形成する上面部１０ｂ（１０Ａｂ，１０Ｂｂ）と、を有する立ち上がり本体１０（１０Ａ，１０Ｂ）と、
前記立ち上がり本体１０の幅方向に沿って並設されて当該立ち上がり本体１０の前記側面部１０ａと前記上面部１０ｂとを被覆する、断面略Ｌ字状に形成された複数の被覆部材１１（１１Ａ，１１Ｂ）と、
隣接する前記被覆部材１１，１１間の継ぎ目Ｊの裏側に配置される、断面略Ｌ字状に形成されたジョイナー１２（１２Ａ，１２Ｂ）と、を備えており、
前記ジョイナー１２の縁部には、当該縁部に沿って防水材１３が設けられていることを特徴とする。
【０００６】
請求項１に記載の発明によれば、複数の被覆部材１１（１１Ａ，１１Ｂ）によって立ち上がり本体１０（１０Ａ，１０Ｂ）の側面部１０ａ（１０Ａａ，１０Ｂａ）と上面部１０ｂ（１０Ａｂ，１０Ｂｂ）とを被覆することができ、ジョイナー１２（１２Ａ，１２Ｂ）によって隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊを、裏側から塞ぐことができる。
そして、ジョイナー１２の縁部には防水材１３が設けられているので、万が一、隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊから水が浸入してきた場合であっても、防水材１３によって以降の水の浸入を防ぐことができる。
したがって、たとえ隣接する被覆部材１１，１１間の継ぎ目Ｊが露出していたとしても、防水材１３が設けられたジョイナー１２によって、立ち上がり部１の防水性を向上させることができる。
【０００７】
請求項２に記載の発明は、例えば図１～図４に示すように、請求項１に記載の立ち上がり部１の防水構造において、
前記複数の被覆部材１１のうち前記床２側を向く側面部１１ａには、第一防水シート１４と、この第一防水シート１４に重なり合う第二防水シート１５が貼設されており、
前記第二防水シート１５は、前記隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊに対応する位置に配置されていることを特徴とする。

【０００８】
請求項２に記載の発明によれば、複数の被覆部材１１のうち床２側を向く側面部１１ａには、第一防水シート１４と、この第一防水シート１４に重なり合う第二防水シート１５が貼設されているので、これら防水シート１４，１５によって、複数の被覆部材１１を二重に覆うことができる。
また、第二防水シート１５は、隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊに対応する位置に配置されているので、隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊを、ジョイナー１２によって裏側から、第一防水シート１４と第二防水シート１５によって表側から確実に塞ぐことができる。
【０００９】
請求項３に記載の発明は、例えば図２～図４に示すように、請求項２に記載の立ち上がり部１の防水構造において、
前記床２には、当該床２の最上層を構成する仕上げ材２８，４６が設けられており、
前記第一防水シート１４および前記第二防水シート１５の下端部は前記仕上げ材２８，４６によって覆われていることを特徴とする。
【００１０】
請求項３に記載の発明によれば、第一防水シート１４および第二防水シート１５の下端部は、床２の最上層を構成する仕上げ材２８，４６によって覆われているので、第一防水シート１４および第二防水シート１５の下端部側から水が浸入しにくくなる。
【００１１】
請求項４に記載の発明は、例えば図２～図４に示すように、請求項２または３に記載の立ち上がり部１の防水構造において、
前記目地部３には、当該目地部３を塞ぐ目地材６が、前記第一防水シート１４および前記第二防水シート１５の上端部を覆うようにして充填されていることを特徴とする。
【００１２】
請求項４に記載の発明によれば、目地部３には、当該目地部３を塞ぐ目地材６が、第一防水シート１４および第二防水シート１５の上端部を覆うようにして充填されているので、目地部３によって、第一防水シート１４および第二防水シート１５の上端部側から水が浸入しにくくなる。
【００１３】
請求項５に記載の発明は、例えば図１に示すように、請求項１～４のいずれか一項に記載の立ち上がり部１の防水構造において、
前記防水材１３は、ブチルゴム系の防水材であることを特徴とする。
【００１４】
請求項５に記載の発明によれば、ブチルゴムは、イソブチレンとイソプレンの共重合で得られる耐候性に優れた合成ゴムであるため、防水材１３が、ブチルゴム系の防水材であれば、隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊを耐候性に優れた素材で防水できる。したがって、経年劣化に対しても効果を発揮することができる。
【発明の効果】
【００１５】
本発明によれば、隣接する被覆部材間の継ぎ目が露出した状態であっても、立ち上がり部の防水性を向上させることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１６】
【図１】隣接する被覆部材の継ぎ目の位置に対応してジョイナーが設けられる状態を示す斜視図である。
【図２】外廊下における住戸側の壁に適用された立ち上がり部の防水構造の一例を示す断面図である。
【図３】外廊下における住戸とは反対側の壁に適用された立ち上がり部の防水構造の一例を示す断面図である。

【図４】バルコニーに面する壁に適用された立ち上がり部の防水構造の一例を示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１７】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

本実施の形態における立ち上がり部１の防水構造は、図１に示すように、屋外にある床２に設けられ、目地部３を介して直上に外壁材４またはサッシ５が配置されてなる。

また、立ち上がり部１は、立ち上がり本体１０と、断面略Ｌ字状に形成された複数の被覆部材１１と、断面略Ｌ字状に形成されたジョイナー１２と、を備える。

【００１８】

屋外にある床２は、すなわち屋外環境に晒された箇所の床であり、例えば集合住宅の外廊下Ｐやバルコニー Ｂの床、玄関ポーチ、テラス等、様々な箇所が挙げられる。

立ち上がり部１は、このような床２の縁部に対して、床面（床の上面）から上方に立ち上がるようにして設けられるものである。

立ち上がり部１の直上には、目地部３を介して外壁材４またはサッシ５が配置される。

なお、サッシ５は、窓またはドアのサッシである。

また、外壁材４としては、ＰＡＬＣ（Precastable Autoclaved Lightweight Ceramics）やサイディング材が採用されている。

【００１９】

立ち上がり部１を構成する立ち上がり本体１０は、この立ち上がり本体１０を受ける下地（例えば建物躯体の梁や、梁に設けられる部材など）に対して取り付けられており、例えばケイカル板（珪酸カルシウム板）や合板等が採用される。

このような立ち上がり本体１０は、床２側を向く側面部１０ａと、外壁材４またはサッシ５の下端面４ａ，５ａ側を向いて当該下端面４ａ，５ａとの間に目地部３を形成する上面部１０ｂと、を有する。

すなわち、立ち上がり本体１０は、断面矩形状に形成されることが望ましいが、これに限られるものではなく、例えば前記下地の形状に合わせて適宜変更可能である。

【００２０】

被覆部材１１は、断面略Ｌ字状に形成された金属製の板材（例えば塩ビ鋼板）であり、床２側を向く側面部１１ａと、外壁材４またはサッシ５の下端面４ａ，５ａ側を向く上面部１１ｂと、を有する。

そして、立ち上がり本体１０の幅方向に沿って並設されて当該立ち上がり本体１０の側面部１０ａと上面部１０ｂとを被覆する。すなわち、複数の被覆部材１１，１１における側面部１１ａと上面部１１ｂのそれぞれによって、立ち上がり本体１０の側面部１０ａと上面部１０ｂとを覆うことができる。

【００２１】

ジョイナー１２は、断面略Ｌ字状に形成された金属製の板材（例えば塩ビ鋼板）であり、床２側を向く側面部１２ａと、外壁材４またはサッシ５の下端面４ａ，５ａ側を向く上面部１２ｂと、を有する。

なお、このジョイナー１２は、隣接する被覆部材１１，１１間の継ぎ目Ｊの裏側に配置されるものである。したがって、複数の被覆部材１１よりも先に、立ち上がり本体１０に対して取り付けられて、立ち上がり本体１０の側面部１０ａと上面部１０ｂとを被覆する。

換言すれば、複数の被覆部材１１は、立ち上がり本体１０の側面部１０ａおよび上面部１０ｂと、ジョイナー１２の側面部１２ａおよび上面部１２ｂとを被覆する。

【００２２】

ジョイナー１２の縁部には、当該縁部に沿って防水材１３が設けられている。この防水材１３として、ブチルゴム系の防水材が用いられている。ブチルゴムは、イソブチレンとイソプレンの共重合で得られる耐候性に優れた合成ゴムである。

また、本実施の形態においてはブチルゴムをシート状に形成し、両面に粘着剤を塗布し

たブチルテープが用いられている。

【００２３】

なお、このようなブチルゴムからなる防水材１３は、ジョイナー１２の側面部１２ａの両側縁部と、上面部１２ｂの両側縁部と、上面部１２ｂのうち側面部１２ａ側とは反対側の縁部に沿って一続きに形成されている。

すなわち、防水材１３は、ジョイナー１２の縁部に沿って略コ字状に形成されており、本実施の形態においてはジョイナー１２の下縁部を除く縁部に設けられているものとする。

【００２４】

複数の被覆部材１１は、そのジョイナー１２側の端部が、ジョイナー１２を介して立ち上がり本体１０にビス止めされる。この時、複数の被覆部材１１のジョイナー１２側端部は、ジョイナー１２に貼設された防水材１３に対して押し付けられた状態となる。

【００２５】

立ち上がり本体１０に取り付けられた複数の被覆部材１１のうち床２側を向く側面部１１ａには、第一防水シート１４と、この第一防水シート１４に重なり合う第二防水シート１５が貼設される。

第一防水シート１４は、複数の被覆部材１１の側面部１１ａの長さ方向に亘って貼設される。また、第二防水シート１５は、隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊに対応する位置に配置される。

なお、本実施の形態においては、第二防水シート１５は、第一防水シート１４の上から重ね合わせられるものとするが、継ぎ目Ｊに対応する位置に貼設された第二防水シート１５の上から第一防水シート１４を重ね合わせるようにしてもよい。

【００２６】

＜実施例１＞

次に、図１，図２を参照して、立ち上がり部１の防水構造を、集合住宅の外廊下Ｐにおける住戸側の壁に適用した場合の実施例について説明する。

【００２７】

図２に示す床２は、ＡＬＣ（Autoclaved Lightweight Concrete）パネルからなる床であり、ブラケット等の部材を介して建物躯体の梁２０によって支持されている。

梁２０は、Ｈ形鋼またはＩ形鋼等の鋼材によって構成され、ウェブ部２０ａとフランジ部２０ｂを備える。

フランジ部２０ｂの上面には、住戸側の床２１と、Ｌ型のアングル材２２とが設けられている。アングル材２２は、その下面部分がフランジ部２０ｂに対してボルト固定されている。

アングル材２２における立ち上がり部分の床２側面には、断面略Ｃ型または筒状の鋼材２３が取り付けられている。さらに、この鋼材２３の床２側面に合板２４が取り付けられている。

【００２８】

なお、住戸側の床２１の上には、住戸の床仕上げ材や壁等が設けられている。

また、図示はしないが、フランジ部２０ｂの上面には、建物躯体の柱も立設されているものとする。

【００２９】

合板２４の床２側面に、立ち上がり本体１０が取り付けられている。合板２４は、立ち上がり本体１０の高さと略等しく設定されている。すなわち、この合板２４が、立ち上がり本体１０を取り付ける際の下地の一部として機能する。

また、鋼材２３の上端部は、立ち上がり本体１０および合板２４の上面よりも上方に突出しており、その上面に外壁材４の裏面側下端部を受ける断面Ｌ型の受材２５が設けられている。

外壁材４は、その裏面側下端部が受材２５によって支持された状態となっており、その下端面が、立ち上がり本体１０に向けられた状態となっている。

【００３０】
床２における住戸側縁部に鋼材２３および合板２４が配置され、合板２４に対して立ち上がり本体１０が取り付けられている。
床２の上面には、後述する第三防水シート１６の下地材として無機質強化板２６が敷設されている。
無機質強化板２６の上面には、第三防水シート１６が貼設され、この第三防水シート１６によって覆われた状態となっている。
【００３１】
外廊下Ｐの施工が以上の状態まで仕上げられた後に、本実施の形態における立ち上がり部１の防水構造が適用される。
すなわち、立ち上がり本体１０の所定の位置（隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊの位置）に、防水材１３が設けられたジョイナー１２が取り付けられ、複数の被覆部材１１が立ち上がり本体１０に取り付けられる。
さらに、第一防水シート１４と第二防水シート１５が、複数の被覆部材１１の側面部１１ａに貼設される。
【００３２】
なお、第一防水シート１４は、第三防水シート１６の立ち上がり部１側縁部から複数の被覆部材１１の側面部１１ａにかけて略Ｌ字状に貼設されている。
また、第一防水シート１４における第三防水シート１６側の縁部は、シーリング処理されている。
【００３３】
そして、床２の第三防水シート１６の上にモルタル２７が打設される。第一防水シート１４および第二防水シート１５の下端部は、当該モルタル２７によって覆われ、押さえられた状態となっている。
さらに、モルタル２７の上面には、床２の最上層を構成する仕上げ材２８が設けられている。この仕上げ材２８は、スリップを防止するための防滑シートである。第一防水シート１４および第二防水シート１５の下端部は仕上げ材２８によっても覆われた状態となっている。
【００３４】
また、外壁材４の下端面４ａと、立ち上がり本体１０の上面部１０ｂ（または複数の被覆部材１１の上面部１１ｂ）との間に形成された目地部３には、当該目地部３を塞ぐ目地材６が充填されている。
目地材６は、目地部３の奥側に設けられるバックアップ材６ａと、このバックアップ材６ａを目地底として充填されるシーリング材６ｂと、からなる。
シーリング材６ｂは、バックアップ材６ａと、外壁材４の下端面４ａと、複数の被覆部材１１の上面部１１ｂと、に対して密着した状態となる。さらに、このシーリング材６ｂは、第一防水シート１４および第二防水シート１５の上端部を覆うようにして充填されて、これら第一防水シート１４および第二防水シート１５の上端部に対しても密着した状態となっている。
【００３５】
以上のようにして、本実施の形態における立ち上がり部１の防水構造が適用された外廊下Ｐが形成・施工されている。
なお、本実施例１では、外壁材４の下端面４ａと、立ち上がり本体１０の上面部１０ｂ（または複数の被覆部材１１の上面部１１ｂ）との間に目地部３が形成されることを説明したが、これに限られるものではない。すなわち、図示はしないが、外壁材４と並んで住戸の玄関ドア用のサッシ５が設けられており、このサッシ５の下端面５ａとの間にも同様に目地部３が形成されているものとする。
【００３６】
＜実施例２＞
次に、図１，図３を参照して、立ち上がり部の防水構造を、集合住宅の外廊下Ｐにおけ

る住戸とは反対側の壁に適用した場合の実施例について説明する。
なお、説明の便宜上、上述した実施例との共通部分には同一符号を付してその説明を省略または簡略化する。また、符号に適宜アルファベットを挿入して、上述した実施例の符号との差別化を図っている。
【００３７】
ＡＬＣパネルからなる床２は、図示しないブラケット等の部材を介して建物躯体の梁２０によって支持されている。
床２の上面には、無機質強化板２６が敷設され、この無機質強化板２６の上面には、第三防水シート１６が貼設されている。
【００３８】
梁２０の上面には、ベースプレート３０ａを有する柱３０が立設されている。ベースプレート３０ａは、梁２０のフランジ部２０ｂに対してボルト固定されている。
柱３０の屋外側面にはＰＡＬＣからなる外壁材３１が設けられている。
【００３９】
本実施例２における立ち上がり部１Ａは、合板からなる立ち上がり本体１０Ａと、複数の被覆部材１１Ａと、ジョイナー１２Ａと、を備える。
立ち上がり本体１０Ａは、床２側を向く側面部１０Ａａと、外壁材（後述するサイディング材４Ａ）の下端面４Ａａ側を向いて当該下端面４Ａａとの間に目地部３を形成する上面部１０Ａｂと、を有する。
立ち上がり本体１０Ａは、柱３０の住戸側面のうち、無機質強化板２６よりも上方の位置に取り付けられている。
【００４０】
複数の被覆部材１１Ａは、断面略Ｌ字状に形成された本体部（側面部１１Ａａと上面部１１Ａｂからなる）と、本体部の上面部１１Ａｂにおける柱３０側端部から上方に突出する突出部１１Ａｃと、を有する。
また、ジョイナー１２Ａも、断面略Ｌ字状に形成された本体部（側面部１２Ａａと上面部１２Ａｂからなる）と、本体部の上面部１２Ａｂにおける柱３０側端部から上方に突出する突出部１２Ａｃと、を有する。なお、このジョイナー１２Ａにも防水材１３が設けられている。
【００４１】
立ち上がり本体１０Ａの所定の位置（隣接する被覆部材１１Ａ，１１Ａの継ぎ目Ｊの位置）に、防水材１３が設けられたジョイナー１２Ａが取り付けられ、複数の被覆部材１１Ａが立ち上がり本体１０Ａに取り付けられる。
この時、複数の被覆部材１１Ａの突出部１１Ａｃと、ジョイナー１２Ａの突出部１２Ａｃも重なり合った状態となる。
さらに、第一防水シート１４と第二防水シート１５が、複数の被覆部材１１の側面部１１Ａａに貼設される。
【００４２】
柱３０の住戸側面には、立ち上がり部１Ａの直上に、目地部３を介してサイディング材からなる外壁材４（以下、サイディング材４Ａ）が設けられる。
また、柱３０の住戸側面には、両面に接着剤が塗布されたブチルテープ３２が貼設され、このブチルテープ３２に防水透湿シート３３が貼設されている。ブチルテープ３２は、複数の被覆部材１１Ａにおける突出部１１Ａｃにも貼設されている。
サイディング材４Ａは、下端部を、ブチルテープ３２が貼設された複数の被覆部材１１Ａにおける突出部１１Ａｃの位置に合わせるようにして、柱３０の住戸側面に設けられている。
【００４３】
そして、床２の第三防水シート１６の上にモルタル２７が打設され、モルタル２７の上面には防滑シート２８が設けられている。
なお、本実施例２では、複数の被覆部材１１Ａおよびジョイナー１２Ａがそれぞれ突出

部１１Ａｃ，１２Ａｃを備えるので、目地部３には目地材を充填しない。
【００４４】
以上のようにして、本実施の形態における立ち上がり部１の防水構造が適用された外廊下Ｐが形成・施工されている。
【００４５】
＜実施例３＞
次に、図１，図４を参照して、立ち上がり部の防水構造を、バルコニーＢに面する壁に適用した場合の実施例について説明する。
なお、説明の便宜上、上述した実施例との共通部分には同一符号を付してその説明を省略または簡略化する。また、符号に適宜アルファベットを挿入して、上述した実施例の符号との差別化を図っている。
【００４６】
建物躯体の梁２０におけるフランジ部２０ｂの上面には、住戸側の床４１と、床梁４０とが設けられている。床梁４０は、その下面部分がフランジ部２０ｂに対してボルト固定されている。
床梁４０の床２側面には、下向きに開口する二つの断面略Ｃ型の鋼材４２，４３が設けられている。
【００４７】
上方に位置する鋼材４２には、窓用のサッシ５の下端部が取り付けられている。なお、サッシ５は、床梁４０の上面と鋼材４２の上面に載置されるようにして設けられている。
また、下方に位置する鋼材４３には、合板２４が取り付けられている。なお、鋼材４３の上面と、合板２４の上面は面一となっている。
【００４８】
本実施例３における立ち上がり部１Ｂは、ケイカル板からなる立ち上がり本体１０Ｂと、複数の被覆部材１１Ｂと、ジョイナー１２Ｂと、を備える。
立ち上がり本体１０Ｂは、床２側を向く側面部１０Ｂａと、サッシ５の下端面５ａ側を向いて当該下端面５ａとの間に目地部３を形成する上面部１０Ｂｂと、を有する。
【００４９】
複数の被覆部材１１Ｂは、断面略Ｌ字状に形成された本体部（側面部１１Ｂａと上面部１１Ｂｂからなる）と、本体部の上面部１１Ｂｂにおける床梁４０側端部から上方に突出する突出片１１Ｂｃと、を有する。
また、ジョイナー１２Ｂは、床２側を向く側面部１２Ｂａと、サッシ５の下端面５ａ側を向く上面部１２Ｂｂと、を有する。なお、このジョイナー１２Ｂにも防水材１３が設けられている。
【００５０】
立ち上がり本体１０Ｂの所定の位置（隣接する被覆部材１１Ｂ，１１Ｂの継ぎ目Ｊの位置）に、防水材１３が設けられたジョイナー１２Ｂが取り付けられ、複数の被覆部材１１Ｂが立ち上がり本体１０Ｂに取り付けられる。
この時、複数の被覆部材１１における突出片１１Ｂｃは、目地部３の目地底を形成している。また、サッシ５の下端面５ａにも下方に突出する突出片５ｂが設けられており、被覆部材１１の突出片１１Ｂｃと共に目地部３の目地底を形成している。
【００５１】
そして、床２には、上面に水勾配が形成された勾配断熱材４５が敷設され、その上から無機質強化板２６が敷設されている。
このように無機質強化板２６が敷設された後に、第一防水シート１４と第二防水シート１５が、複数の被覆部材１１の側面部１１Ｂａに貼設される。
この時、第一防水シート１４は、無機質強化板２６の上面と被覆部材１１の側面部１１Ｂａにかけて貼設されている。
また、無機質強化板２６の上面に貼設された第一防水シート１４の上面には、バルコニー用の仕上げ材４６が敷設されている。

この仕上げ材４６は、マットであり、シート状のもの（例えば上述の防滑シート２８）よりも厚みがある。そして、第一防水シート１４および第二防水シート１５の下端部は、このように厚みのある仕上げ材４６によって覆われた状態となっている。

【００５２】

また、サッシ５の下端面５ａと、立ち上がり本体１０Ｂの上面部１０Ｂｂ（または複数の被覆部材１１Ｂの上面部１１Ｂｂ）との間に形成された目地部３には、当該目地部３を塞ぐ目地材６が充填されている。

目地材６におけるシーリング材６ｂは、バックアップ材６ａと、サッシ５の下端面５ａと、複数の被覆部材１１Ｂの上面部１１Ｂｂと、に対して密着した状態となる。

【００５３】

以上のようにして、本実施の形態における立ち上がり部１Ｂの防水構造が適用されたバルコニーＢが形成・施工されている。

なお、本実施例３では、サッシ５の下端面５ａと、立ち上がり本体１０Ｂの上面部１０Ｂｂ（または複数の被覆部材１１Ｂの上面部１１Ｂｂ）との間に目地部３が形成されることを説明したが、これに限られるものではない。すなわち、サッシ５に隣接する外壁材４の下端面４ａとの間にも同様に目地部３が形成され、目地材６が充填されているものとする。

【００５４】

本実施の形態によれば、複数の被覆部材１１（１１Ａ，１１Ｂ）によって立ち上がり本体１０（１０Ａ，１０Ｂ）の側面部１０ａ（１０Ａａ，１０Ｂａ）と上面部１０ｂ（１０Ａｂ，１０Ｂｂ）とを被覆することができ、ジョイナー１２（１２Ａ，１２Ｂ）によって隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊを、裏側から塞ぐことができる。

そして、ジョイナー１２の縁部には防水材１３が設けられているので、万が一、隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊから水が浸入してきた場合であっても、防水材１３によって以降の水の浸入を防ぐことができる。

したがって、たとえ隣接する被覆部材１１，１１間の継ぎ目Ｊが露出していたとしても、防水材１３が設けられたジョイナー１２によって、立ち上がり部１の防水性を向上させることができる。

【００５５】

また、複数の被覆部材１１のうち床２側を向く側面部１１ａには、第一防水シート１４と、この第一防水シート１４に重なり合う第二防水シート１５が貼設されているので、これら防水シート１４，１５によって、複数の被覆部材１１を二重に覆うことができる。

また、第二防水シート１５は、隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊに対応する位置に配置されているので、隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊを、ジョイナー１２によって裏側から、第一防水シート１４と第二防水シート１５によって表側から確実に塞ぐことができる。

【００５６】

また、第一防水シート１４および第二防水シート１５の下端部は、床２の最上層を構成する仕上げ材２８，４６によって覆われているので、第一防水シート１４および第二防水シート１５の下端部側から水が浸入しにくくなる。

【００５７】

また、目地部３には、当該目地部３を塞ぐ目地材６が、第一防水シート１４および第二防水シート１５の上端部を覆うようにして充填されているので、目地部３によって、第一防水シート１４および第二防水シート１５の上端部側から水が浸入しにくくなる。

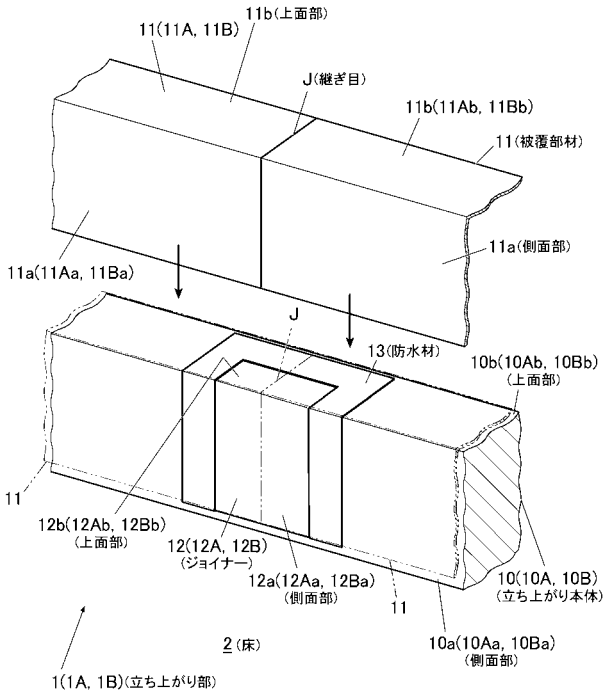
【００５８】

また、ブチルゴムは、イソブチレンとイソプレンの共重合で得られる耐候性に優れた合成ゴムであるため、防水材１３が、ブチルゴム系の防水材であれば、隣接する被覆部材１１，１１の継ぎ目Ｊを耐候性に優れた素材で防水できる。したがって、経年劣化に対しても効果を発揮することができる。

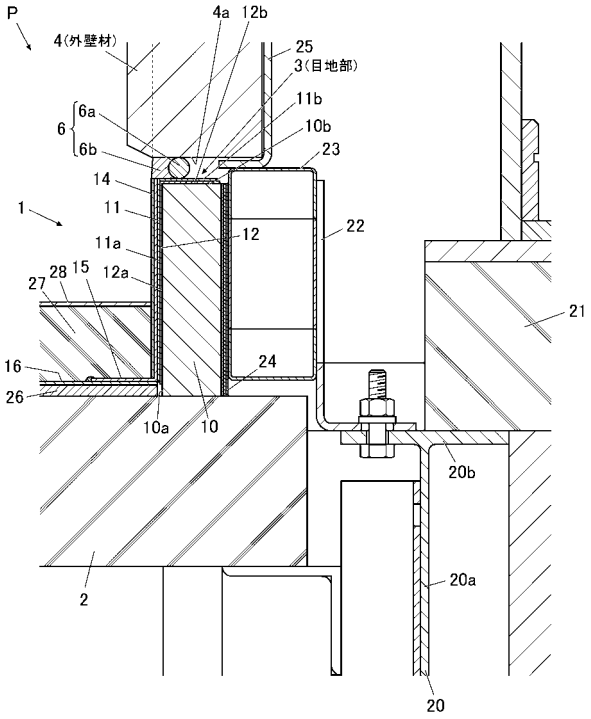
【符号の説明】

【００５９】
１　立ち上がり部
２　床
３　目地部
４　外壁材
４ａ　下端面
５　サッシ
５ａ　下端面
１０　立ち上がり本体
１０ａ　側面部
１０ｂ　上面部
１１　被覆部材
１１ａ　側面部
１１ｂ　上面部
１２　ジョイナー
１２ａ　側面部
１２ｂ　上面部
１３　防水材
１４　第一防水シート
１５　第二防水シート

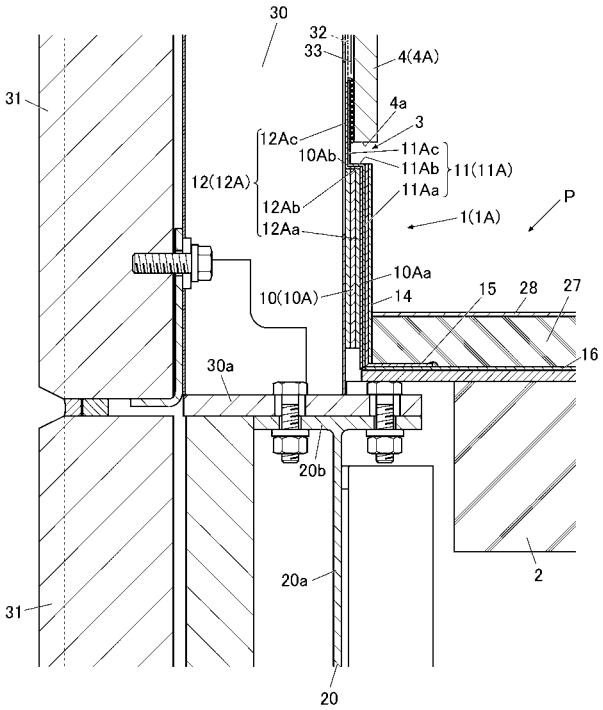
【図１】



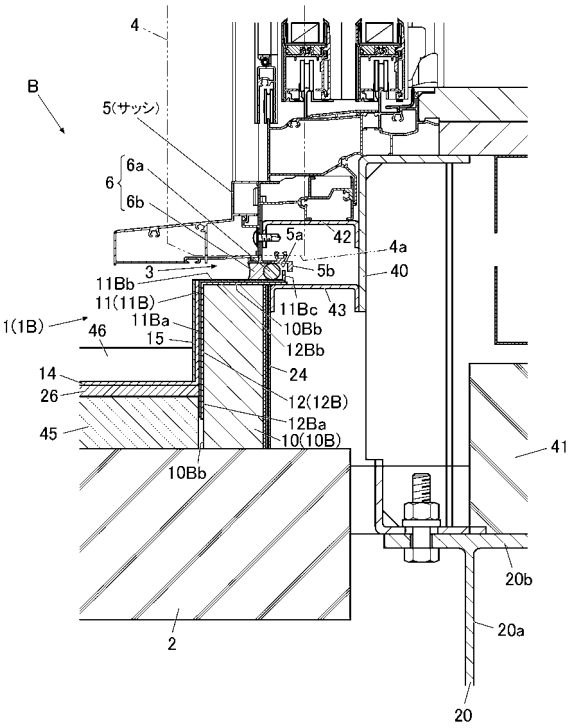
【図２】



【図３】


30
32
33
4(4A)
31
4a
3
12Ac
11Ac
10Ab
11Ab
11(11A)
12(12A)
11Aa
12Ab
12Aa
1(1A)
P
10Aa
10(10A)
14
15
28
27
16
30a
20b
20a
2
31
20

【図４】


4
B
5(サッシ)
6a
6
6b
5a
42
4a
3
5b
40
11Bb
11(11B)
11Bc
43
1(1B)
11Ba
10Bb
46
15
12Bb
14
24
26
12(12B)
12Ba
45
10(10B)
41
10Bb
20b
2
20a
20

フロントページの続き

(72)発明者　堀　勝
愛知県名古屋市東区泉１丁目２３番２２号　トヨタホーム株式会社内

Ｆターム(参考) 2E001 DA00　FA18　GA24　HE01　MA01